

泥中の華

福島伸悦

わが故郷行田古代蓮の里には、今 40 数種類の蓮が見事に咲き、多くの人々を魅了しています。また、行田市には 60 数カ寺がありますが、そのうち 43 カ寺が蓮を植え檀家さんをはじめ訪れる人々に癒しを与えています。古代蓮の里とはまた違った趣を醸し出しています。ところで、私のお寺では、今年忙しさに紛れ、蓮根の株分けをしませんでした。株分けをして新しい田んぼの土を入れる手入れをすると元気な蓮花が、泥中から綺麗な純粹無垢な姿を現してくれます。20 鉢の蓮を管理していますが、手入れをしなかったせいか、現在 4~5 鉢の花しか咲いてくれません。なんでもそうですが、愛情をこめて手入れをしなければ相手は答えてくれません。

ところで、私たちは、泥は汚いものと思っていませんか。蓮は泥に染まらず、清らかな別のところにあるかのように私たちは錯覚します。しかし、清水の中では蓮は育ちません。泥があって初めて花を咲かせます。

仏教の言葉に、「煩惱即菩提」という言葉があります。泥が煩惱で、蓮花が菩提という事です。煩惱のないところ、悩みや苦しみや迷いが無いところには、悟りも喜びもないという事です。ですから泥があって初めてあの清らかな美しい花がさくのです。自分にとって一番つらい事、悲しい事、触れられたくないところとしっかり見据えるとそこが実は仏の世界なのです。お釈迦様は、この世を四苦八苦の世界、思い通りにならない世界、迷いの世界だとおっしゃっています。この迷いの世界こそ悟りの世界だという事です。なかなか私達凡夫にとって難しいですが、もがき苦しみの中から自分の花が咲くのだと思います。